

令和4年度B日程  
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて6ページで、問題は□一から□三まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に  
**志願先高等学校名と受検番号**を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

志願先高等学校名

高等学校

受検番号

【一】 次の(一)～(四)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書きなさい。

- 1 オリンピックを招致する。
- 2 新記録に挑む。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書きなさい。

- 1 贈り物を和紙でハウソウする。
- 2 距離がチヂまる。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を数字で書きなさい。

誌

(四) まいさんは、国語の授業で「情けは人のためならず」という言葉を題材にスピーチをすることにしました。次の【メモ】は、まいさんがスピーチの内容を考えるために書いたメモであり、【スピーチ】は、まいさんが練習で行ったスピーチである。また、後の【会話】は、まいさんたちがスピーチについて話し合った内容である。これらを読んで、後の1～5の問いに答えなさい。

【メモ】

- ① 「情けは人のためならず」という言葉の本来の意味と、誤った解釈。
- ② 「情けは人のためならず」という言葉の理解についての世代別調査の結果。
- ③ 「情けは人のためならず」という言葉以外の誤用されることが多い言葉の例。
- ④ 若い人は、普段から言葉の正しい意味を理解するように努めるべきだということ。
- ⑤ 言葉の意味を正しく理解するためには、多くの本を読むことが必要だということ。
- ⑥ 言葉は、時代によって意味が変化することがあるという認識が大切だということ。

【スピーチ】

みなさんは、「情けは人のためならず」という言葉は、どういう意味だと思いますか。

<sup>1</sup>この言葉の意味を「情けをかけることは、その人のためにならない」と思っている人が多いようですが、実は「情けをかけると、めぐりめぐって自分によい報いがくる」という意味です。

私が調べた資料では、若い世代の人の方が、誤った解釈をしている割合が多くなっています。このような状況では、若い人と年配の人が話をする時に、きちんとコミュニケーションをとることができないかもしれません。<sup>2</sup>私の心配は、世代間で誤解が生じることが心配です。こういう言葉の例としては、他にも「かわいい子には旅をさせよ」などがあります。

このことから、私は、若い人は言葉の意味を正しく理解するように努力するべきだと考えました。そのためには、私たちは普段から読書の習慣を身につけることが必要です。

まい 私は、「情けは人のためならず」という言葉を題材にスピーチをすることにしました。その理由は、この言葉を最初に聞いた時に私が想像した意味と、本来の意味が違っているということを知ったからです。この言葉をとおして、言葉の意味を正しく理解して使うことの大切さを感じたので、そのことをみんなに聞いてほしいと思いました。私のスピーチについて、アドバイスをお願いします。

A スピーチの最初に、「情けは人のためならず」の言葉の意味を問いかけたのは、聞き手の関心を引きつけるのに効果的だと感じました。

B 【メモ】の②の世代別調査については、若い人と年配の人それぞれについて、結果の数値を具体的に話すと、もっと聞き手にわかりやすくなるのではないかと思います。

C 【メモ】の③を使って、「情けは人のためならず」以外の例を付け加えたのはよかったです。ど、一つでは不十分だと思います。思いつく具体例は全部挙げるべきです。

D スピーチの最後の「普段から読書の習慣を身につけることが必要です」という主張は、どういう理由によるのでしょうか。理由を話さないと、聞き手は納得しないと思います。

先生 【メモ】の⑥は、結局使わなかったんですね。

まい はい。確かに若い人たちだけの問題ではなく、言葉は時代によって変化するという性質もあるのですが、こういう結論にしようか迷ったのですが、今回は□を伝えたいと考えたので、使わないことにしました。

先生 なぜ、そう考えたのですか。

まい 私は、「情けは人のためならず」という言葉の本来の意味を、祖父と会話をしている時に教えてもらいました。その時、人々の間で長い時間をかけて受け継がれてきた言葉を、私たち若い人たちがおろそかに扱うことで、年配の人ときちんとコミュニケーションをとれないのは問題だと強く感じたのです。

先生 なるほど。それなら、そう感じた時の出来事を、スピーチの中に入れるといいかもしれませんね。

1 【スピーチ】中の——線部1の「この」の品詞名を、漢字で書きなさい。

2 【スピーチ】中の——線部2に「私の心配は、世代間で誤解が生じることが心配です。」とあるが、この文は、主・述の関係が適切でない。適切な表現に直して、一文全部を書きなさい。

3 【会話】中のAとDの発言から、まいさんのスピーチについての発言として適切でないもの一つを選び、その記号を書きなさい。

4 【会話】中の□に当てはまる言葉として最も適切なものを、【会話】中から二十一字でそのまま抜き出して書きなさい。

5 次のア～エについて、——線部のことわざが本来の意味で正しく用いられて、文の意味が成り立っているもの一つを選び、その記号を書きなさい。

ア 「灯台下暗し」とならないように、物事を考える際には幅広い視野をもつべきだ。

イ 「良薬は口に苦し」の言葉どおり、自分に役立つ忠告でも皆に有効とは限らない。

ウ 「雨降って地固まる」というので、物事がうまくいった後には争いに用心が必要だ。

エ 「渡る世間に鬼はない」というように、苦労があっても誰かが助けてくれるものだ。

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「本質」とあるが、これを比喻によって表した言葉として最も適切なものを、文章中から**十一**字でそのまま抜き出して書きなさい。

(二) 文章中の——線部2に「一例を挙げれば、数字がそうである」とあるが、筆者はここで「数字」をどのようなもので、どのような良さがあると述べているか。その内容を、**五十**字以上**七十**字以内で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(三) 文章中の——線部3に「これができるから人間だ、といっても良い」とあるが、筆者はここでどうしているか。その内容として最も適切なものを、次の**A**、**E**から**一つ**選び、その記号を書きなさい。

**A** 具体的な情報を捨てて別の多数のものにも共通する一般的な概念を構築することは、人間だけができる優れた思考の手法であり、その能力をもつ人間は、見かけの複雑さに囚われずに、常に世の中の問題の本質を見きわめて、解決を図ることができるということ。

**I** 自分の経験や知識や立場を忘れて客観的に考えたり、表面的なものに囚われずに抽象的に考えたりすることは、非常に難しいことなので、人間以外の動物にはほぼ不可能だが、人間は想像するという高度な思考方法を備えているため、それができるということ。

**U** 客観的に考えたり、抽象的に考えたりするには、忘れることが大切であるが、一度、自分の経験や知識や立場を忘れると、それを思い出すのは人間以外の動物には難しく、人間だけが想像するという思考方法によって、忘れたことを容易に思い出せるということ。

**E** 相手の身になって相手の気持ちを想像するということは、人間の思考の大きな特徴であり、人間以外の動物にはできないことなので、その能力を十分に発揮して、自分の経験や知識や立場を忘れて、よりよい関係を築くことが人間には求められているということ。

(四) 文章中の——線部4に「想像」というのは、現実にはないもの、見えないもの、経験したことがないもの、今直接には関係のないもの、そういう未知で不在のものを考えることである」とあるが、筆者は「想像すること」を、「常識」または「好奇心」との関係で、どのように捉えているか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどのように考えるか。次の条件1と3にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を八十字以上百字以内にとめること。

**条件2** 最初に、「想像すること」についての筆者の考えを、「常識」または「好奇心」のいずれかとの関係から説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

**条件3** 自分の考えについては、なぜそう考えるかという理由を明らかにして書くこと。

〔三〕 次の文章を読み、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

昔、国皇あり、国を治めて後、諸臣下に問ふ、「我、よく、国を治む。賢なりや否いなや」。諸臣、皆云はく、「帝は、甚はなはだよく治む」。

一人の臣ありて云はく、「帝、賢ならず」。帝云はく、「故ゆゑ如何」。臣云はく、「国を打ち取りし時、帝の弟に与へずして、息そくに与ふ」。

帝の心に適かなはずして、追ひ立てられて後、また、一人の臣に問ふ、「朕ちん、よく仁なりや」。臣云はく、「甚はなはだよく□□なり」。帝云はく、「その故如何」。臣云はく、「仁君には忠臣あり。忠臣は直言あるなり。前まきの臣、甚はなはだ直言なり。これ、忠臣なり。仁君にあらざるは、得じ」。

即すなはち、帝、これを感じて、前まきの臣を召し返されぬ。

(懷えいじょう禁『正法眼蔵随聞記』による)

(注) 国皇：国の帝王。

故如何：どういうわけなのか。

息：息子。

朕：帝王が自分を指し示す語。われ。

仁：他を思いやり、いつくしむこと。

直言：自分が信じることを遠慮せず言うこと。

(一) 文章中の——線部の「追ひ立てられて」を現代仮名遣いに直して、——線部全部をひらがなで書きなさい。

(二) 文章中の□□に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から一字でそのまま抜き出して書きなさい。

(三) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 帝は無礼なことを言った臣下を捕らえさせたが、臣下の非礼を許すことができる寛大な君主こそが仁君と呼ぶのにふさわしいという別の臣下の言葉に心を動かされ、捕らえさせた臣下を許した。

イ 帝は自分の弟の肩を持つ臣下を遠い国に送り出したが、臣下を理不尽に扱えば仁君だという評判を失ってしまうことになるだろうと別の臣下に説かれて心を動かされ、送り出した臣下を帰国させた。

ウ 帝は気に入らない返答をした臣下を追放したが、自分の考えをはっきりと言う臣下を持つのは仁君であるということ別の臣下に説かれて心を動かされ、追放した臣下を呼び戻した。

エ 帝は一人だけ違う意見を述べた臣下を降格させたが、多様な意見を聞き入れようとする君主こそが仁君であるという別の臣下の言葉に心を動かされ、降格させた臣下を元の立場に戻した。